

(23) 藻類養殖指導

予算

運営費交付金

概要

- ・藻類養殖漁場の塩分、リン（DIP）、窒素（DIN）：表1～3のとおり。
- ・ノリ（尾崎・西鳥取）：10月28日に育苗開始、ノリ芽は比較的良好な状況。冷凍入庫は11月中旬実施。12月1日前後にノリ網の張り込み、12月7日頃に単張り養殖へ移行。生産は12月下旬に開始、本格生産は1月上・中旬から。2月上旬に栄養塩濃度低下に伴う色落ちにより生産一時停滞。色落ち回復後の2月中旬以降は再度生産が本格化した。終漁は3月上旬～4月上旬。生産枚数は159万枚となった（表4）。
- ・ワカメ養殖：開始時期は、谷川以外では11月中・下旬以降、谷川では12月上旬以降。養殖開始後に食害、生長不良等により生産が遅れ、1月下旬～2月上旬には色落ちも発生した。
- ・フリー配偶体：徳島県立農林水産総合技術支援センターより提供されたワカメ・フリー配偶体を9月13日より拡大培養し、10月21日に谷川で採苗した。12月7日に仮沖出し、12月下旬に養殖を開始し、通常採苗種苗と同等の生産があった。
- ・藻類養殖情報：気温・水温、降雨量、栄養塩測定結果、赤潮発生状況及び養殖概況をとりまとめ藻11月～3月に5回発表した。

調査方法

1. 調査定点
泉南市岡田浦、阪南市尾崎、西鳥取、下荘、岬町谷川の5点
2. 調査期間と実施日
2016年9月から2017年3月
巡回指導実施日：11月7日、12月5日、1月5日、2月2日、3月6日
ワカメ・フリー配偶体培養：9月13～10月21日
ワカメ・フリー配偶体採苗：10月21日
3. 調査項目
 - 1) 巡回指導
各養殖漁場で採取した表層海水の塩分、溶存態無機リン（DIP）、溶存態無機窒素（DIN）の測定（塩分、DIP、DINの分析は海域環境グループが実施）、ノリ・ワカメの養殖概況の把握
 - 2) ワカメ・フリー配偶体の培養・採苗
 - (1) ワカメ・フリー配偶体の培養
フリー配偶体の拡大培養、短日処理

調査結果

3. 1) の結果は表1～4のとおり。

担当者

佐野雅基、山中智之、田中咲絵（栄養塩分析）、曾根耕治（塩分分析）

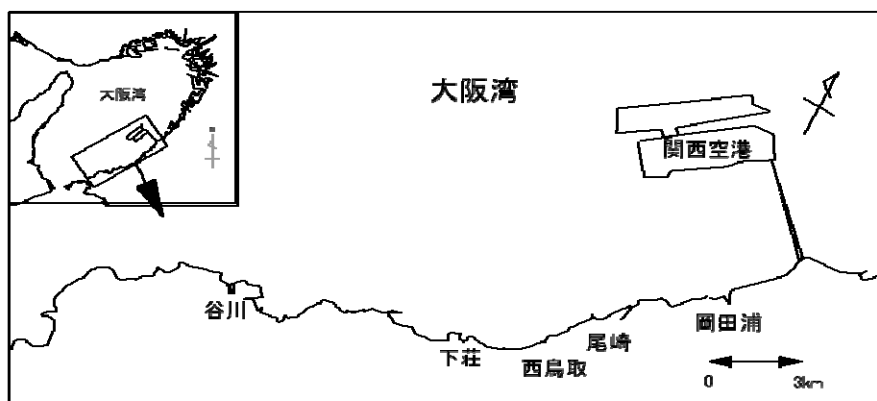


図1 調査場所

表1 漁場の表層塩分

(psu)					
月	岡田浦	尾崎	西鳥取	下荘	谷川
11	32.06	32.03	31.40	31.76	32.79
12	31.68	31.63	31.89	31.18	32.90
1	31.12	31.27	30.93	31.21	32.32
2	31.26	30.77	31.45	31.65	32.25
3	31.44	31.50	31.80	31.77	32.55

表2 漁場のDIP

($\mu\text{mol/l}$)					
月	岡田浦	尾崎	西鳥取	下荘	谷川
11	0.69	0.65	0.98	1.03	0.77
12	0.71	0.71	0.71	0.96	0.49
1	0.75	0.44	0.78	0.74	0.54
2	0.22	0.09	0.06	0.13	0.28
3	0.55	0.88	0.50	0.45	0.40

※ノリ色落ち警戒濃度： $0.5\mu\text{mol/l}$ 、ワカメ色落ち警戒濃度： $0.1\mu\text{mol/l}$

表3 漁場のDIN

($\mu\text{mol/l}$)					
月	岡田浦	尾崎	西鳥取	下荘	谷川
11	12.00	10.54	16.45	16.78	6.90
12	15.21	12.34	11.48	15.05	6.63
1	11.49	5.29	13.70	11.89	6.24
2	6.86	1.34	0.21	0.33	1.68
3	8.39	12.55	5.00	2.98	3.85

※ノリ色落ち警戒濃度： $10\mu\text{mol/l}$ 、ワカメ色落ち警戒濃度： $2\mu\text{mol/l}$

表4 ノリ生産概況の経年変化

年度(平成)	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H28/H27
経営体数	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	1.00
持網数(千枚)	0.98	1.04	1.05	1.02	0.90	0.86	0.86	0.67	0.76	0.79	1.05
生産枚数(千枚)	164	47	302	296	292	360	343	258	154	159	1.03
共販枚数(万枚)	117	0	25	—	—	—	—	—	—	—	—
平均単価(円/枚)	5.44	—	6.56	—	—	—	—	—	—	—	—